

「今始まるサイディングプレカット」

採寸システムのデジタル化で
生産体制の合理化を実現

ナカザワ建販株



圧倒的な加工スピードを持つ全自動サイディング加工機「MPD-13」

関西エリアを中心に住宅建材や住設機器の供給を行うナカザワ建販株式会社（大阪府岸和田市、四本 敦緒社長）がサイディングプレカット事業への参入を計画したのは東日本大震災の翌年である平成23年。10年以上前に取引のあったハウスメーカーからの依頼で構造のパネル化を成功させ、建物の精度を高められたことと、サイディング施工におけるクレーム対策の模索が元々のきっかけだ。構造の精度が高まったのであれば、サイディングのプレカット対応が可能ではないか？というハウスメーカー側の要望に応えることと、現場施工で生じる粉塵・騒音などのクレームへの対応策としてこの事業をスタートさせた。

事業スタート当時はパネル加工に使用した開口情報などのデータをそのままサイディングプレカットに転用する方法を模索し、自社で使っている2Dのプレゼ

ンソフトを改造し、採寸無しでプレカットする仕組み造りに挑んだ。1年間で約7棟ほどを手がけて問題点を洗い出し、宮川工機㈱と協力して同社のプレカットCAD(MP-CAD8)が持つオプション機能をベースにサイディングプレカット用のCADソフトを完成させた。

1年の事業運営で浮き彫りになった問題点は、サッシのクリアランスや製品の歪みなどが現場レベルで対応不可能なことと、採寸システムの重要性。構造材と異なりサイディングは化粧材なので、1mmの誤差も許されない高い加工精度が要求される。また、部材を規格化していたとしても、一棟ごとに微妙な差が出てくるので採寸が必要になってくる。CADソフトが完成した次の段階では自動で採寸図を出力できるように機能を拡張。また、受注が増加傾向にあり、手加工での